

## 1. 前置詞にも主語がある？

——テーブルの上のリンゴのお話——

前置詞の正体＝意味の構造をつかむために、まずちょっとした道具立てを考えましょう。

前置詞はその名のとおり、**名詞**の前に置く言葉であることはご存じですね。前置詞の後にある名詞は「**前置詞の目的語**」と呼ばれています。

しかし、目的語を考えるだけでは前置詞は理解できないのです。動詞に主語があるのと同じように、**前置詞にも「主語」が必要**なのです。たとえば、

**on the table**

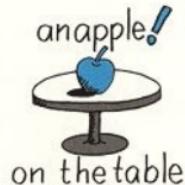
という英語を見たら、だれでも「テーブルの上に、**何**があるの？」と思うはずです。



もし

**an apple on the table**

とあれば、「リンゴがテーブルの上にある」という、完成されたイメージが浮かびますね。



ほとんどの前置詞の基本的な意味は、このように**2つのものの空間的な位置関係**なのです。

この本では、このappleにあたるものを、「**前置詞の意味上の主語**」略して**「前置詞の主語」**と呼ぶことにします（ここからは、例文の中の前置詞の主語（S）を太字の斜字体、前置詞（P）と目的語（O）を太字で示します）。

## 2. 「SPO理論」でいこう！

前置詞の意味のしくみを図で表すと次のようにになります（Pは前置詞prepositionの略）。

<前置詞の基本的な意味構造>

**S + P - O**

主語 前置詞 目的語

「Sが、Oに対して、Pの関係にある」

英語の文には、このような「S-P-Oのユニット」がたくさん隠れています。でも重要なのは、次の3つのパターンだけなのです。